

2025 年度第 1 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2025 年 7 月 27 日（日）10：30～16：30（受付 10：00～）

会 場： 京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺栗田町 93）/Zoom

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。2025 年度第 1 回の全国研修会を京都リサーチパークで開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会では、ユング派分析家であり、当学会の編集委員長でもある田中康裕先生にご登壇いただきます。夢や描画、箱庭といったイメージ表現を用いるユング派の心理療法について、その基本的な出発点からその位置づけに至るところまで、具体的にお話いただきます。

後半の分科会では、6 つの分科会を設けております。ほとんどの分科会で事例を募集しておりますので、どうぞ奮ってご応募ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2025 年 5 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

<開催要領>

1. 定 員：オンサイト参加者 120 名
オンライン参加者 無制限

会場に来場いただく「オンサイト」参加と、Zoom を使用して視聴いただく「オンライン」参加を選択可能なハイブリッド形式での開催となります。

参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負いうる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

2. 参 加 費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

3. 研修ポイント：全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第 2 条（3）「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には 2 ポイント、分科会での事例発表者には 4 ポイントが付与されます。

4. 研修内容

(1) 全体会：10：30～12：30

テーマ：『「イメージの心理療法」の今日的展開と可能性』

講師：田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

ユング心理学は「イメージの心理学」と言われるが、それに倣えば、ユング派心理療法は、夢・箱庭・描画等のイメージ表現を用いる「イメージの心理療法」と言えるだろう。そのようなユング派心理療法では、なぜイメージに着目するのか、イメージをどのように位置づけどのように取り組んでゆくのかという基本的な問いから始めて、その今日的展開や可能性まで包括的に考えてみたい。当日は、様々な「病態水準」や「発達水準」の事例に対するイメージを介した「見立て」や、神経症構造を前提とできない今日的意識が呈する問題に対して「イメージの心理療法」がもつアドバンテージ、臨床場面における「内面性」の確立から「内包性」の実現へという着眼点のシフト等について、具体的な事例も交えながら、論じることになるだろう。

(2) 分科会：13：30～16：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

概要の最後に＜事例募集＞の表記のある分科会では、事例発表者を募集しています。事例発表希望者は、「5. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学・にしきまちオフィス）

『自分自身の世界観を生きていくことと、現実的に生きていくということ』

思春期・青年期のテーマのひとつとして自分自身を社会のなかにどう規定していくのか、というものがある。そのテーマが意識的、無意識的に動くと、それに対しての試行錯誤を内的にも外的にも行うことになり、それがさまざまな苦しみや不適応や無為な状況として出てくることは多い。また、そのテーマが、決めるべきことを決められない、何かを選ぶことで、何かを失うことになることが苦しい、などという訴えとして表に出てくることもある。今回は、このようなテーマへの直面を契機に來談したものの、面接内での語りやイメージ表現から、まったく次元の違う世界観のありようが見えてきた青年期ケースについて検討したい。そしてその人自身の世界観を生きていくことと、現実を生きることをつないでいく接点としての面接のあり方についても考えていきたい。

（事例提供者：奥原 理恵子氏）

● 第2分科会 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

『症状がはらむ目的とイメージ』

心理療法では、クライアントの症状を、単に除去されるべき苦痛の源泉とみなすのではなく、例えば、分析心理学における補償作用のように、何らかの目的を担うものとして捉える視点がある。しかし一方で、その目的に向けたこちらの動きが十分に展開することを妨げられ、淀み、結晶化してしまっている事態が症状であるとも言える。こうした事態に対して、箱庭療法などのイメージ技法が新たな場や媒体となることで、滞っていた内的な流れが再び動き出し、症状とは異なる形で展開していくことがある。本分科会では、症状のもつ目的性に関連する諸理論を確認しつつ、イメージ技法によって、症状がはらむ目的に向けた心の動きがいかに展開されうるのかについて考えたい。

＜事例募集＞何らかの症状をもつ事例（本テーマに触発されたものであれば、どんなものでもかまわない）。

● 第3分科会 河合 俊雄（京都こころ研究所）

『発達障害と強迫症状』

「重ね着症候群」という用語があるように、ASDの人のこだわり行動やそのようなイメージは強迫性障害と間違えられることが多い。またグレーゾーンがあるのも事実である。発達障害における強迫症状の意味について、事例から検討したい。

（事例提供者：長野 真奈氏）

● 第4分科会 桑原 知子（放送大学）

『カウンセリングと遊戯療法』

一般的に、カウンセリングと遊戯療法は、心理療法のなかで異なるアプローチと考えられているように思います。（たとえば、「大人にはカウンセリング、子どもには遊戯療法」のように。）

しかし、両者はそれほど違うアプローチなのでしょうか。カウンセリングのなかに、遊戯療法的なところはないでしょうか？あるいは、遊戯療法のなかにカウンセリング的要素はないのでしょうか？今回は、このことを考えることによって、カウンセリング（あるいは遊戯療法）をよりダイナミックにとらえなおしてみたいと思います。そして、その際に、sand「play」とされる箱庭療法を手掛かりにしていきたいと考えています。

＜事例募集＞どんなところでなされたものでも、どのような形式のご発表でもかまいません。

● 第5分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『「イメージ表現」の臨床的活用』

心理療法場面で夢が報告されたり、箱庭が置かれたり、バウムや風景構成法等の描画テストを施行したり、スクリブルを導入したりした経験のあるセラピストは多いだろう。それぞれの「イメージ表現」にどのように関わってゆくかについては、それぞれのセラピストの個性によるところも大きいですが、それでも、それぞれの媒体の特徴があったり、読み取り方や取り組み方に要点があったりすることは確かである。この分科会では主として、イメージの「内在的理解」に焦点を当てて、上記のテーマについて考えてみたい。

＜事例募集＞どのような臨床の場でもセラピーのなかで夢・箱庭・描画等が扱われた事例を募集します。

● 第6分科会 松下 姫歌（京都大学大学院教育学研究科）

『現代における「傷つき」回避』

現代社会においては、「傷つく」ことへの敏感さが増し、他者を傷つけたり他者から傷つけられたりしないよう、傷つきを回避することにエネルギーを割く傾向が強まっている。このことに関連して、相手や周囲の言動や価値観などに「傷ついた」として強い他責的言動に終始するようになる方も増えてきたように思われる。それは、「傷つき」を主体的に体験するからこそ他責というよりは、むしろ「傷つき」を引き受けることを回避し、自分の課題や問題に直面せずに済むように、他責的イメージにしがみついている場合も少なくないと思われる。今回は、このような、「傷つき」回避にまつわるイメージの理解とアプローチについて考えたい。

＜事例募集＞「傷つき」回避とそれをめぐるイメージ表現は、語りや行動、箱庭、描画、夢などで、さまざまな形で表れうると思いますので、幅広く捉えて頂いてよく、それぞれの切り口で取り上げて頂ければと思います。

5. 参加・発表申し込みについて

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお問い合わせください。



【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込フォームに誓約書の入力画面がございます。内容をご確認いただき、チェック入れてください。誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますので、あらかじめご了承ください。

